Japan Intellectual Property Association

2026 AUTUMN

Vol. 39

季刊 じぱ

Renewal

新デザインでスタート！
実務者に響く情報発信を
強化していきます



「秋の調和」photo by 北京尚誠知識産権代理有限公司 龍 偉 氏

ZOOM UP Special

専門委員会委員長会

高井 浩太郎
Kotaro TAKAI
日本知的財産協会 会誌広報委員会 委員長
浜松ホトニクス株式会社
知的財産本部 知的財産企画管理部



AI活用委員会

吉武 和志
Kazushi YOSHITAKE
日本知的財産協会 AI活用委員会 テーマリーダー
株式会社ダイヘン 技術開発本部 知的財産部 課長



実務スポットライト

［会誌広報委員会］
知財担当者「座右の書 其の壱」



JIPA通信

「知財管理」特集号
「知的資産が高める経営力」



ZOOM UP Special

専門委員会委員長会

高井　浩太郎　日本知的財産協会 会誌広報委員会 委員長
Kotaro TAKAI　浜松ホトニクス株式会社
知的財産本部 知的財産企画管理部



専門委員会をつなぎ、JIPAの未来を支えるリーダーコミュニティ

委員長会は、JIPAの各専門委員会の委員長が集まり、委員会運営に関する情報交換や課題共有、解決策の検討を行うコミュニティです。各専門委員会が抱える課題を持ち寄り、委員会活動の活性化につなげるとともに、事務局長にも参加いただきながら、JIPA全体の課題についても幅広い視点から議論しています。2026年度は奥脇副理事長のもと、23名の委員長が参加し、年3回の委員長会を通じて活動しています。なかでも第2回は合宿形式で開催され、遅い時間まで委員長同士で深い議論を交わすことも委員長会の特徴です。また、本年度からは委員長会にもJIPAの予算が拠出されることとなり、活動のさらなる充実が期待されています。

7月30日に浜松ホトニクス株式会社にて開催された第1回委員長会では、担当理事の挨拶や事務局長からの連絡に加え、会誌広報委員会およびAI活用委員会から活動報告が行われました。会誌広報委員会からは、専門委員会との連携や「季刊じば」による情報発信の取り組みが紹介され、AI活用委員会からは、新設委員会としての活動方針と想定する成果の詳細について説明がありました。続いて「SANMONプロジェクト」による過去の活動成果の報告と全体でのディスカッションが行われ、最後にゲスト参加いただいたSEP WGリーダーを務めるキヤノン株式会社の平山氏よりキヤノンの知財活動をテーマとした講演が行われました。

悩みを共有し、解決策を探る

現在の委員長会は、2023年度から2025年度に理事・委員長・事務局が連携して専門委員会運営の課題解決に取り組んできた「SANMONプロジェクト」の成果や考え方を引き継いでいます。このプロジェクトでは、「会員企業のみなさまと、もっとつながる、もっとひろがる、専門委員会」を合言葉に、会員企業のみなさまと専門委員会との接点を増やすための様々な活動が行われました。具体的には、委員長による会員代表の集いへの参加、JIPAの地区協議会との意見交換、派遣された委員の上長を招待した専門委員会の開催、JIPAのホームページやSNSを活用した情報発信、JIPAシンポジウムでの委員長座談会などが挙げられます。これらの活動は、専門委員会への理解を深めるとともに、専門委員会全体の委員の増加につながりました。

第1回委員長会では、委員の確保、副委員長以上の育成、研究テーマの選定と調査、担当理事とのコミュニケーション等、各専門委員会に共通する課題や状況について、参加者同士で意見交換を行いました。さらに、議論の中では今後の委員長会の活動として、委員長経験者の知見や委員会運営の工夫を共有する「委員長ハンドブック」の作成が提案され、ある委員長が委員長会終了後にハンドブック案の骨子を自発的に提案しました。また、懇親会の場では委員長会のSNSコミュニティ開設が提案され、別の委員長が自発的に立ち上げるなど、自らがすぐに実行できると判断したことを行動に移すことができるメンバーが多数参加していることが委員長会の強みです。ハンドブックやSNSコミュニティは、委員長同士がつながり、相談できる環境づくりの構築に大いに役立つことが期待できます。

委員会運営は組織運営の縮図

委員長会で議論されるテーマは、実は多くの企業や組織にも共通するものです。委員長の多くは所属企業においても管理職やチームリーダーとして活躍しており、委員長会で得られた知見や経験は、自社の組織運営にも活用されています。異なる業種や企業から委員長が集まるからこそ、自社だけでは得られない視点や発想に触れられることも、委員長会の大きな魅力です。

平山氏の講演のような各社の知財活動や組織運営の実践に触れることは、委員長自身の知識や視野を広げるだけでなく、自らが率いる専門委員会や社内組織の活動をより多くの視点、広い視野、高い視座で考えることにもつながっていきます。

委員長会での議論や交流、理事やWGリーダーとの対話を通じて得られた知見が各専門委員会へ還元され、その成果がJIPA全体の発展へとつながっていく。委員長会は、そのような好循環を生み出すコミュニティとして、今後も活動を続けていきます。



2026年度第1回委員長会@浜松ホトニクス

ZOOM UP Special

AI活用委員会

吉武　和志
Kazushi YOSHITAKE
日本知的財産協会AI活用委員会 テーマリーダー
株式会社ダイヘン
技術開発本部 知的財産部 課長



実務者の知見が行き交う、生成AI活用のためのコミュニティ

AI活用委員会は、生成AIをはじめとするAI技術の急速な進展を踏まえ、知財実務に生成AIを活用する上での課題の把握とその解決策の提案をすべく、今年度新たに立ち上がった専門委員会です。知財実務において、発明発掘、出願書類の作成、中間処理対応、契約書作成・レビュー、IPランドスケープなどの知財戦略検討に至るまで、AI活用の可能性が広がる一方、精度、情報管理、社内ルール、業務プロセスへの組込みなど、各社が共通して直面する課題もあります。本委員会では、こうした課題を整理し、解決策を提案することで、AI活用のハードルを下げることを目指しています。また、AIに関する知財問題や既存の法制度との関係性の整理に関し、知財実務を担う立場から意見発信や要望を行うことも目的としています。活動は、即効性のある成果共有を企画実行するドメイン1と、業務活用上の具体的課題・解決策を深掘りするドメイン2を中心に進めており、各ドメインの中に複数の研究テーマを設けています。本稿では、その中から私が所属しているドメイン1テーマの一つである「知財実務向け生成AI活用のためのコミュニティの検討」の取り組みについて紹介します。

知財実務向け生成AI活用のためのコミュニティとは

AI活用に関する情報の流動性を高め、AI活用のハードルを下げることを目的に、知財実務における生成AI活用に関する悩みや知見を持ち寄れるオンラインコミュニティの試験的な運営を進めています。知財実務へのAI活用は徐々に普及しているとは言われている一方、AIの分野は技術の進歩が極めて速く、各組織の状況や環境も異なるため、多くの組織が手探りで活用を進めているのが現状かと思います。こうした状況下では、必要な情報や課題を共有し合い、スピード感と集合知を活かして解決に取り組むことが、更なるAI活用を促進する一つの有効な手段であると考えられます。本コミュニティでは、気軽に知財実務における生成AI活用に関する疑問や課題を共有し、お互いの知見や実践知を活かしてそれぞれのAI活用が加速化するきっかけ作りの場を目指しています。様々な組織や立場の方が集まり、知財業界のために協力するJIPAだからこそ実現できる取り組みです。現在は、プラットフォームの検証、わかりやすいチャンネル構成、セキュリティや各組織のノウハウに配慮した投稿ルール、コミュニティを盛り上げるための仕掛け作りなどを検討しながら、AI活用委員会内で試験的に運用しています。



コミュニティの運営メンバー

コミュニティ内の投稿例

このコミュニティでは、AI活用フォーラムや雑談、まとめチャンネルなどを設け、参加者が気軽に話題を投稿できる場を目指しています。

中心となるAI活用フォーラムでは、Copilotの知財業務での使い方、プロンプト作成上の工夫、AIが出力した結果の品質確認方法や内容の検証負荷を下げる施策の検討、個人開発したAIツールの組織的展開方法、関係省庁から出されたAI関連方針の共有など、実務ならではの悩みや知見からニューストピックまで、様々な話題が共有されています。

雑談チャンネルでは、日々の気づきや簡単なTipsの共有のような投稿から、発明の届出書作成、報奨業務、請求書処理など、具体的な知財実務におけるAI活用上の論点に発展するような議論もあります。また、botを作成し、週ごとの投稿内容や盛り上がった議論の整理に加え、AIに関する最新ニュースの投稿も行っています。これらのbot自体もAIを活用して作成しており、コミュニティ運営そのものがAI活用の実践の場にもなっています。今後は、オンラインでの配信やオフラインイベントなども取り入れながら、参加者同士の接点を増やし、より活発なコミュニティづくりを進めていきたいと考えています。



活発な議論がなされるオンラインコミュニティ
（画像は実際の画面からAIで生成したイメージ図です。）

実務スポットライト

知財担当者「座右の書 其の壱」

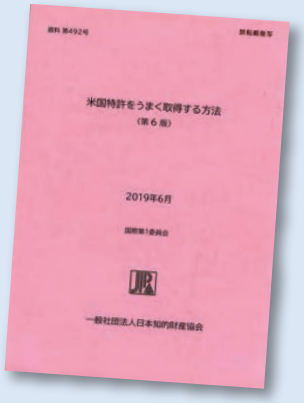
会誌広報委員にアンケートを行いました！

会誌広報委員会



[資料第492号] 米国特許をうまく取得する方法

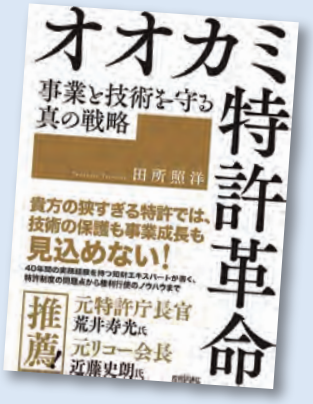
JIPA国際第1委員会



JIPA研修で配布された冊子です。手続き面の基本的事項から、OA対応のコツや登録後の検討事項まで解説されており、研修受講後も辞書として有効活用しています!

オオカミ特許革命 事業と技術を守る真の戦略

田所照洋／技術評論社



特許出願のあるべき姿がここに。特許を武器として、盾として取得することの重要性とその手法を学べます!

キヤノン特許部隊

丸島儀一／光文社



知財担当者としての原点となった本で、色褪せない名著です。実際にあった、対アメリカ企業との知財訴訟の攻防は、当時の緊張感が伝わってきて面白かったです!

「米国特許をうまく取得する方法」は、協会HP「会員ログイン」→「機関誌･広報誌」→「資料」にて公開しています。
最新の知財関連書は、「知財管理」の新刊書紹介コーナーにて紹介しています。是非こちらもご覧ください。
「オオカミ特許革命 事業と技術を守る真の戦略」は、2022年10月号の同コーナーにて紹介されています。

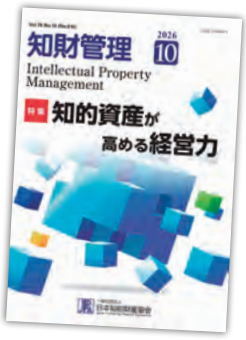
JIPA通信「知財管理」特集号「知的資産が高める経営力」

10月特集号では、「**知的資産が高める経営力**」をテーマに、知的資産を経営や事業の成長につなげるための考え方と実践事例を幅広く取り上げています。

知財･無形資産を経営にどう活かせばよいのか関心のある方には、「**AI時代**における知財･無形資産の可視化と対話の最前線」や「知財を企業価値に翻訳する―**投資家に伝わる無形資産**開示とは何か―」がおすすめです。知財活動を企業価値の向上へ結び付けるためのヒントが得られます。

オープンイノベーションや共同研究に関係する方は、「**東北大学**における産学連携推進戦略」、「**AIST Solutions**が取り組む社会実装と事業価値創出」、「**共創時代**における知財マネジメントの再設計」をぜひご覧ください。共創時代に求められる知財部門の役割を考える上で参考になる内容です。

また、知財の事業貢献や価値発信に関心のある方には、「B to B企業における知的資産と**コンテンツマーケティング**の接続」、「高付加価値戦略による**ブランド再生**と知的資産の活用―**湖池屋の事例**―」、「**南葛SCと『キャプテン翼』**―コンテンツIPの活用によるスポーツクラブ経営―」がお薦めです。知的資産を経営資源として活かすための多様な視点に触れていただければ幸いです。



季刊じぱ Vol.39
AUTUMN 2026
2026年10月15日発行

編集人：　一般社団法人 日本知的財産協会　会誌広報委員会
発行人：　一般社団法人 日本知的財産協会内　上野 剛史
https://www.jipa.or.jp/official-publication/jipa-quarterly
印刷&DTP：　NPC 日本印刷株式会社